

『オランダ ザンス フォークアート』  
『ペインティングと羊毛刺しゅうでファッションリメイク』  
オランダザンス協会認定講師 小俣広子 先生

『暮らしにおしゃれなエッセンスを！』

今回お話を伺うのは、ふわり柔らかな笑顔がチャームポイントの小俣広子先生。「オランダ ザンス フォークアート」「ペインティングと羊毛刺しゅうでファッションリメイク」、2つの講座にご出講頂いています。

まずは「オランダ ザンス フォークアート」講座のお話を伺いました。そのルーツはオランダのザンス地方にあり、長く寒い冬の間、家具に絵を描いたことが始まりとされています。小俣先生の前にあるテーブルの上には小物入れやティッシュケース、ドアプレートに壁掛け。鮮やかに彩られた先生の作品がまるでお花畑のように並んでいます。そこに描かれている花模様は、アクリル絵の具数色を筆に乗せ、一筆で描く手法だそうです。メインの花と、それを囲む花々の流れるような躍動感にとても心惹かれます。

これだけの作品を完成するまでにはどんな道のりが・・・と、思いきや「オランダ ザンス フォークアートは特別な技術や才能は必要ないのです。作品のデザインは希望する人にはパターンもありますし、順番に描いていけば誰にでも描ける技法です。好みも取り入れてアレンジできるので、世界に一つだけの素敵な作品に仕上がりますよ」穏やかな笑顔でおっしゃる小俣先生。これまでの道のりをお聞きしました。



平成十年、ご近所のお友達グループで楽しく始めた「オランダ ザンス フォークアート」でしたが、家事と子育てを優先としていたのでお休み期間もあったそうです。少し離れてみるとその奥深さと魅力に改めて気づき、お稽古に戻ってからは講師資格や新しい分野への挑戦と努力を積み重ねました。気付けば二十数年の月日を重ねて今日に至ります。ダイナミックで個性的な作品に仕上げる「オランダ ザンス フォークアート」の技法に魅せられ、今日まで続けてこられたようです。



続いては「ペインティングと羊毛刺しゅうでファッションリメイク」講座のお話です。

羊毛刺しゅうは、シンプルな洋服やファブリックに羊毛（夏はシルク糸）で刺しゅうを施します。基本、針が刺せる布であれば素材は問いません。発色のきれいな羊毛フェルトを下絵に沿って針で刺していきます。平面的な刺しゅうとは違い、こんもりとした立体感が華やかさを引き立てます。シンプルなセーターやカーディガン、クッションなども生き生きと鮮やかにリメイクできます。ファブリックペインティングはシンプルな生地にアイビーカラーというファブリック用の絵の具でお花などを描きます。耐水性がある為ブラウスやエプロン、ストールなどがおしゃれでオリジナルな一点物へ生まれ変わります。身に着ける姿を想像しながら描くのは楽しくて待ち遠しい、幸せな時間になることでしょう。

2つの講座の特徴は見た目の華やかさに反して、その手法がシンプルで誰にでもチャレンジでき、完成した作品はしっかり優しく暮らしに馴染んでいくこと。それは私たちが忘れかけている、物を大切にすること、そして手仕事の温かさと達成感を思い出させてくれることでしょう。

「オランダ ザンス フォークアート」講座には昨秋より愛知晴美先生も加り、より手厚い対応ができるようになりました。小俣先生は講座にあたって心がけていらっしゃるがあります。まずは受講生さんの個性を大切にしたいということ。基本の色は大事だけれど皆さんそれぞれが持つ感性や好みは是非とも活かしたいので、アレンジできるように一緒に考えアドバイス。また、誰かにプレゼントしたい物があればそのリクエストにもお応えして寄り添う姿勢を大切にしたいそう。

「だって、楽しんで頂きたいでしょ」 陽だまりのような笑顔からこぼれる言葉に心癒されるひと時でした。